

小田原ガイド協会だより

— O G O 第99号 —

NPO法人 小田原ガイド協会

小田原市城内3-22(〒250-0014)
TEL.0465-22-8800/FAX.0465-22-8814

<http://www.odawara-gaido.com>

企画ガイド

小田原七福神めぐり

関森規安

令和六年一月九日(火)小田原七福神めぐりの企画ガイドを実施した。当日は天候も良く厳しい冷え込みも無く、清々しい一日であった。訪問ヶ所は以下の定番である。

- ① 毘沙門天(潮音寺)
- ② 満願弁財天(福泉寺)
- ③ 寿老人(鳳巢院)
- ④ 大黒尊天(蓮船寺)
- ⑤ 恵比寿(報身寺)
- ⑥ 福祿寿(大蓮寺)
- ⑦ 布袋尊(圓福寺)



小田原の七福神は平成一〇年から始まったが、今後のガイドの参考にと七福神の始まりとされる『上野谷中の七福神』も巡ってきた。こちらは二五〇年以上の歴史がある七福神めぐりということである。



潮音寺

るが、それぞれのお寺の佇まいは小田原とあまり変わらない。どちらも静寂の中にあるという感じである。

徳川家康に七福神めぐりを勧めたとされる天海大僧正が開山した寛永寺にも立ち寄ってみたがこちらも都内とは思えない静寂の中にあつた。



福泉寺



鳳巢院

のガイド員が担当した。

これについてはお客様から、少人数ガイドの良さを感想としていただいている。ガイド員各人は前日遅くまで資料や道順などを確認していたようである。とにかく説明する対象が多岐に渡り、とても記憶するまでには至らな



蓮船寺

さで、今年の小田原七福神めぐりは二十六名の方が参加された。交通の安全面等を考慮し、少人数グループに分けて、六名のガイド員が担当した。



大蓮寺



報身寺

かと感じている。七福神をすべて巡るので歩く距離も長くなり、しかも起伏に富んでいるので余計に息もあがってしまうのであつた。



圓福寺

い。しかもガイドというのはいま喋りすぎてもいけない。お客様はガイドが説明する事を咀嚼する時間が必要なのだ。お客様から沢山感想をいただいたが、頭に残らないという感想もいただいた。これが小田原七福神のガイドの難しいところなのだ。

★今年参加されたお客様はどんな願い事をされたのでしょうか。
ちなみにガイドも担当した小生は財運を祈願しました。また来年も小田原七福神めぐりで会える事を願っています。

企画ガイド

錦秋の箱根路
——
堂ヶ島散策と紅葉狩り

松本和子

六月に大好評だった『イワタバコを見る宮ノ下堂ヶ島散策』の第二弾として、今回初めて『秋の紅葉——堂ヶ島散策』のコースが企画されました。

六月の時は梅雨期ということもあり、ガイド当日のお天気にはハラハラ心配でしたが、今回の企画は秋。お天気の心配は無し。しかも前日までの暑いくらいの気候とは打って変わって、ガイド当日の天気予報は前日の気温より九度低くなるとのこと。標高四〇〇㍍を超える宮ノ下では、さぞかし寒くなるだろうと、気合を入れて一枚多く着込んで出かけました。

集まったお客様の中には、六月に参加された方もいらつしやうて、箱根の人気を改めて実感。スタート場所の、浅間公園では真っ赤に染まったイロハモミジが、お



お客様をお出迎え。「わあ〜」とお客様。早速シャッターを切ります。「これは期待できませぬ」テンションを上げながら、いざ出発。私は一番手。話し始めはいつも緊張します。私の班は、初めてガイド協会企画に参加されるお客様もいらつしやいました。お客様同士すぐに仲良くなつて楽しい雰囲気になりました。

堂ヶ島の遊歩道では、木漏れ日が差し込んでキラキラと光るモミジや、色づいた木々の向こうに流れる早川の渓谷。この時期にしか見られない光景です。途中の川久保発電所では、一休みをしたあと「私ばかりしゃべって、そろそろ皆さんも声を出したいでしょう」とみんなですべて「紅葉」を合唱しました。案外これが好評でした。

底倉温泉のお湯の湧出口では寒さのせい、いつもより温泉の湯気がはつきり見えました。寒かったけど、お客様に喜んでもらえてよかったです。皆さんが怪我もなく、無事に解散場所に到着した時は、ホッと安心しました。

委員会だより (IV)



回遊バス
委員会

委員会は原則、月一回合会を行い、岸本・水口をリーダーとして八名で進めています。

内容は①前回の各自の添乗による要改善・気づいた情報等を共有し②以降の添乗予定空白日への呼びかけリストの作業を③添乗結果報告書の特記事項のチェックから、要処理・事後対処策を打ち合わせ、そして④新会員の添乗実務実習を兼ねて、同乗研修を実践し、育成・成長を目指しています。



また、各自は委託先関連事業所職員ともコミュニケーションをとり、連携維持を図る窓口として行動しています。①駅改札前案内所への挨拶・情報交換②運転手からの添乗状況・評判の聞き込み③市観光課との安全・安心運行、観光客からの声等、運行の評価・改善希望事項等の意見交換・効果の共有に努め④毎年度初めの勉強会資料として「運行上の注意・留意事項、ポイントバス停駐在員との連携の共有、そして⑤走行ルート周辺のトーク参考事例集作成などに勤めています。

バス運行の目的は観光客に対し「市街地での回遊性とその利便に誘客とその滞留性の向上を図る。そして市街地の活性化に結びつけることを目的とする」としています。その効果向上を図るためには、ガイド協会として「何を成すべきか」と委員会でも考え努めています。協会員の知恵と工夫策の提案、各自の協力と成長を期待しています。

乗ガイドが話題となり「誘客・滞留効果に結びついた」と言われています。

近年、ミナカ小田原の進出、諸城郭の改修・整備が施される等、街が進化しています。

まずは添乗し、各自の学習成果を生かして下さい。

「二〇二四年一月：島田卓司」

企画ガイド

町名碑と

金次郎さん

瀬戸 清照

今回の一班の企画ガイドは小田原城周辺の歴史的町名碑を巡りながら、郷土の偉人『二宮金次郎』ゆかりの地をご案内するというテーマで企画された。

一月十四日に十三名、十八日は十八名の参加者を得て実施された。小田原駅東口の金次郎像前を九時にスタートし小田原城の周辺を歩き報徳二宮神社までの約三時間、六kmほどのコースである。

小田原駅の金次郎像前をスタートし、最初の町名碑は「揚土」。皆さん町名碑に興味を持たれ、さかんに写真を撮られていた。

小田原駅西口にまわり愛宕神社跡の説明をした。愛宕神社の拝殿や幣殿が徳川家康により江戸へ移



転したことや、駅の方までつながっていた谷津丘陵が鉄道の開通などの

ため切り通され、町の景色が一変したことをお話すると皆さん驚かれていた。

青橋の前を過ぎ小峰の方へ向かった。この辺りに金次郎が小田原藩に仕えるきつかけとなった家老服部十郎兵衛の屋敷があり、青年の金次郎が若様のお供で毎日この坂を通ったことを説明した。そして藤棚で一休みのあと、三の丸小学校の裏から新道を通り宮前町の方へ向かった。「なりわい交流館」でお茶をいただき一息休憩。

説明板で賑やかだった小田原宿の説明をした後、箱根口から西海子小路、狩野殿小路、山角天神下、御感の藤を通って報徳二宮神社に参拝した。



報徳二宮神社参道

こうして初めての企画ガイドは無事終了した。長時間のため歩き方はよかったか、説明はわかりやすくてきたかなどいろいろ気になったが、お客様から温かい言葉も頂きよかった。様々な助言をいただいた諸先輩に感謝致します。

まち歩き

松崎屋陶器店

土井正代

本家は万町で漁業網卸雑貨商を初代「曾我与三郎」が、現在地に、明治二〇年のれん分けして「せともの店」を開業。創業時は軽便鉄道を利用して、下田方面まで注文取りに行っていた様子！



方が多くなり「素敵な器「つつわ」で食べたい」(物は器で...)と言われているように料理をさらに引き立てて家で食事をするのが楽しみになっている方達が増えて、あたらしい食器を求め来店されます。又、娘さんの新所帯に親子二代に渡り揃えてほしいと注文を頂き、双方の喜びになっています。

当主の曾我社長さんは昭和35年創立の(協)日本陶芸チエーン理事長に就任され月一回は日本六古窯など産地まわりをしています。陶器も洋服と同じ様に流行があり窯元に行くのが楽しみであり、お客様に様子を話すことで喜んでいただいています。

現在小田原には、昔から店舗をはった陶器店は「うちだけ」と、以前あった陶器店が今は業務用食器専門の事務所に姿を変えている。それは小田原だけではないように、今はネットで調べ遠方より足を運ばれる方もふえたようです。

コロナ禍には、家で食事をする

二階のギャラリーには歴代店主が収集してきた陶磁器コレクションに、また一つ本家より安政五年(一八五八)の蓋付き漆汁椀セットが加わりました。必見!!

企画ガイド

トリプルA
海・菜の花・富士山の
吾妻山ウォーキング!

内田秀世

一月二八日はあいにくの曇り空で富士山は雲の向こうです。当日、二宮駅前に集合したお客様は全員で八人。私は三人グループのお客様を担当しました。まずは柔軟体操の後、二宮町の紹介をして出発です。

国道一号線での説明は箱根駅伝の二宮付近のテレビ画面の写真、町立図書館で探し出した藤田電機前の江戸時代から唯一残った松とその松並木の面影を残した昭和初期の写真、大磯海脚がわかる海底地図等、資料の多さでトーク技術の拙さのカバーを目指しました。

梅沢海岸からは伊豆半

島、大島、初島が見え、沖合には沢山の漁船が出て海の景色は上々。大磯海脚が「瀬の海」と呼ばれて好漁場であるという話にも興味を示していただきました。川勾神社では入口看板手前の川



勾町内会防災倉庫の前で両方を見ていただきながら「川勾」と「川勾」が違っていることを説明したところ、一寸驚かれています。お隣の西光寺は紅白の梅が満開に近く、お客様は写真撮影に夢中になっていました。桜の季節も素敵な撮影スポットとなりそうです。

吾妻山の登り口は釜野隧道の入口の手前です。ここで釜野隧道開通までの地元の皆さんの苦労話をしながら一休み。最後の難関の急坂を登り、尾根づたいに吾妻山へ上りつくと南には遥かに広がる相模灘、西から北にかけては満開の菜の花の背景に伊豆の山々から箱根、丹沢の山々が広がる景色が爽快な気分を与えてくれました。

トリプルAから富士山が抜けてダブルAとになってしまいましたが、お客様からは楽しかったと言っていました。

何とか初めての企画ガイドツアーを終わることができました。

三班の皆様のご協力、素晴らしい自然と文化遺産を守り育てている二宮町の皆様に感謝して報告を終わります。

委員会だより(V)



レンタサイクル委員会

小田原城などの歴史と文化が薫る小田原を散策できるよう小田原市は「レンタサイクルぐるりん小田原」を始めました。ガイド協会はレンタサイクル業務の委託を受け、運営を行っています。

レンタサイクル委員会はおお客様が利用しやすいようお客様ファーストを目指し、小田原市と協力してレンタサイクル業務がスムーズに行われるよう課題の整理やレンタサイクルの点検、帳票の整理などをを行っています。

活動としては月一回委員会を開催し課題の整理を行うとともに、その都度お客様が安心して利用できるようレンタサイクルの点検を実施しています。また、月初めには、前月の利用申請書の点検・集計を実施するとともに車いすの点検も実施しています。

観光客の増加に伴い、通常小田原駅東口レンタサイクル(ウメコ)ほか早川臨時観光案内所、観光交流センター、また下曽我で行われ

る梅まつりに合わせ臨時に梅の里で貸し出し所を設けています。観光案内をしながら、多くの方に小田原の名所巡りなど、交通の足として利用していただいています。また利用される方の事故を防止できるように交通ルールを厳守していただく工夫をしています。

多くのリピーターが生まれることを目指し、レンタサイクルを利用した企画ガイドを実施し、第一弾「メダカの学校の舞台小田原でメダカの生息地を自転車で散策しよう」、第二弾「秋の小田原の里山をポタリングでぐるりん」、秋バラを見に行こう」では多数の方に参加をいただいき、第三弾の実施に向け鋭意検討を進めています。市では、利用者の回遊性を調査するためGPSを利用した動向調査を行い今後のレンタサイクルの改善に力を入れています。このように利用者の増加を図るため、さらなる利便性の向上を目指して色々工夫して活動しています。

「二〇二四年一月・石田恭士」



整備点検の様子

リレーエッセイ／わたしの城旅 ②3

行ったぞ！見たぞ！！

城割の肥前名護屋城

神田耕治

一夜城をガイドしていると肥前名護屋城の縄張りの説明板があり、一夜城と似ていると書いてあります。名護屋城は小田原合戦の後、朝鮮出兵を目的として秀吉が築城した陣城です。

いつしか「名護屋城か…、行ってみたいなあ…」と思うようになりました。



名護屋城本丸く遊撃丸を望む

昨年九月「九州百名城巡り」の募集があり、内容を見ると、名護屋城が入っている。早速家内には「嬉野温泉に泊まって温泉湯豆腐を食べに行こう」と説得して、旅行会社に申し込みました。旅行は二月初旬です。行くなら少しは「見所」を予習しようと思い、「城破りの考古学」「近世城郭の考古学入門」を読みました。城割りの事例として、また織豊時代の代表的な虎口として権威を

示す虎口と、軍事的な機能を持つ虎口があると紹介されています。

三日間とも天気は良く、お城巡りには最高です。黒田長政の福岡城、吉野ヶ里、秋月城、荒城の月の岡城、熊本城を踏破し最終日です。

バスは玄界灘に向かって北へ進んでいます。いよいよ唐津市内です。海が見え交差点の信号機に「伊達政宗陣屋跡」と書いてあります。添乗員さんがこの辺りに武將の陣屋があり二十万人が住んでいたとの説明です。バスはお城の駐車場に到着です。受付で資料を戴き入城です。



大手門跡の石垣を見ると、V字型に崩されています。高石垣、三の丸、本丸の石垣も規則正しく壊されています。資料によると約三〇カ所以上の隅角部が破

却されているそうです。誰が見ても城の石垣が人為的に壊れているのがわかります。これほどまで、壊されているのは驚きでした。隅角部だけでなく石垣が規則正しく一定間隔でV字型に壊されています。いつ誰が壊したかは諸説あるそうです。

天守台では、海がよく見えました。時間が無くなってきたため急いで戻り、広く大きな建物の立派な名護屋城博物館に入り、秀吉の黄金の茶室を見ました。陣屋の配置図も展示してありました。凝視すると、大久保忠世の陣屋と岬の先端には、北条氏盛の陣屋を見つけることができました。小田原城に関係した名前を見るとなぜか感動しました。

【2024年企画ガイド予定】 申込み・お問合せ 0465-22-8800

企画名	月日	コース概要
文学散歩 小田原ゆかりの文人たち	3/23 (土)	JR早川駅～久翁寺～真福寺～小田原漁港～早川橋～旧熱海街道～西海子小路～小田原文学館
風薫る真鶴さんぽと 潮騒煌めく相模湾クルーズ	4/27 (土)	真鶴駅～謡坂～岩海岸～大ヶ窪海岸～真鶴港～鳴窟～相模湾クルーズ (欠航時 貴船神社)
古地図片手に 浜町付近の町名碑を巡る (仮)	5/17 (金)	小田原駅～北条氏政・氏照墓所～大工町～抹香町～古新宿町～万町・高梨町～なりわい交流館

・詳細は、小田原ガイド協会ホームページをご覧ください。

【編集後記】

■今年に入り、旅行熱はますます高まっています。最近の傾向は王道の京都などの有名観光地よりも個人の志向に合った場所を選択するようです。小田原にもまだまだ認知されていない場所や食が有りそうです。会員の皆さんもそれぞれの「推し」が有るのでは？ 今後そんな「推し紹介コーナー」掲載なんてどうでしょう。(Y)

【編集委員】 磯崎知可子 柏木由美子 上田 信一 飯沼忠雄

令和6年度賛助会員

賛助会員のお店は皆様をお待ちしています！

賛助会員の皆様にはガイド協会の活動に賛同しご支援を頂いています。

賛助会員の詳細は小田原ガイド協会HPをクリックしてください。

<http://www.odawara-gaido.com>

☎ 0465-

☎ 0465-

朝ドラファ〜ミハルネ店 23-3100	せきしん運輸 42-7375
鱒 志 北 條 080-5465-0066	田 毎 24-3030
伊 勢 屋 22-3378	田中屋本店 22-5545
ういろう 24-0560	だるま料理店 22-4128
魚市場食堂 23-3818	長一商店 42-0359
江 嶋 22-1661	欄干橋ちん里う 22-1547
小田原種秀本店 22-6238	露木木工所 22-5995
小田原箱根商工会議所 23-1811	東 崑 庵 22-4657
籠 清 23-4530	鳥 かつ 楼 22-2078
籠 常 商 店 23-1807	菜 の 花 24-5688
柏木美術鋳物研究所 22-4328	箱根屋酒店 22-6416
カネタ前田商店 23-4741	小田原早川漁村 24-7800
甘味処 鎌 倉 20-4475	平 井 書 店 22-5370
居酒屋 金 時 23-0721	松崎屋陶器店 24-2479
食事処 幸 繁 22-5155	マツシタ靴店 24-2233
グリル 木の实 22-2912	万 葉 の 湯 23-1126
さがみ信用金庫 24-3161	柳屋ベーカリー 23-2342
志村屋米穀店 24-2224	山市湯川商店 22-5637
鈴木製館所 22-3520	山 安 21-1137
鈴廣かまぼこ 22-2333	R Y O 20-0077

【50音順】